

はじめに結論ありき 1

(や＝山田 学)〔☆☆☆はじめに結論ありき
☆☆☆☆いはゆる「南京大虐殺」があつた、
といふ、今の“国際認定”は、事実を根拠と
してはゐないと、わたしどもは、考へます。
ならば、なにを根拠、あるいは動機としてゐ
るのか。実は、米国のこころの奥にある、負
ひ目こそが、動機となつてゐるのではないか。
菅沼光弘、ベンジャミン・フルフォード、飛
鳥昭雄『神国日本八つ裂きの超シナリオ』(ヒ
カルランド2013年)

<https://www.honyaclub.com/shop/g/g15122298>

より、引用いたします。〕

(『神国日本…』323～324ページより・菅沼光
弘先生の発言)〔…東京裁判のときに南京
大虐殺で30万人が犠牲になったとされましたが、これは30万人でなければいけなかつ
たんです。なぜか。広島・長崎で27万人が
実際に殺されたのです。それがアメリカに
とっては、心の中で非常に負い目になって
いる。しかし、日本は南京で30万人殺した
じゃないか。こういうバランスをとってし
まったんです。〕

(や)〔すなはち、はじめに結論ありき、で、
事実検証は、決して、尊重されてゐないやう
です。一神教勢力には、「目には目を。歯に
は歯を。』といふ、報復思想が、根強い。実

は米国、もしも日本国が核武装したら、ヒロ
シマ、ナガサキの報復として、ワシントンや
ニューヨークなどに、核ミサイルを打ち込ん
でくるのでないかと、まじめに恐れてゐたと
いふ説も、あります。純情平和な日本人のほ
とんどに、そんな発想は、ありませんが…
もっとも最近、米国がやうやく、日本人の
純情さも理解し、米国弱体化傾向とも、あひま
つて、実は、米国のはうから、日本国統治自
立を促してゐる、といふ情報も、あります。
さて、では、1937年の南京制圧時の、事実は、
どうであつたか。それについては、まづ、
早坂 隆『松井石根と南京事件の真実』(文春
新書2011年)

<https://www.honyaclub.com/shop/g/g13452125>

に、かなり正確に、書き込まれてゐると、思
ひます。

「南京大虐殺」の「責任者」として、処刑さ
れた、松井石根^{いはね}大将は、陸軍のなかでも、と
くに、〈日中友好論者〉でした。その松井大
将の苦悩は、ともかく、東京裁判にて“国際
認定”された、松井大将像とは、正反対なの
です。

また、南京制圧時、敵の指導者が先に逃亡し
たのであり、ある意味では、無血開城に近か
つた。むろん、大虐殺など、発生してはゐま
せん。

ところで、その松井石根大将、山田 学の実
家あたり、名古屋駅太閤通口すぐ、名古屋市
立牧野小学校区の、大先輩です。しかしこの

事実、地元でも、タブーです。地元民のほと
んども、知らないのです。戦後の風潮にて、
東京裁判による“国際認定”に、いかに強く、
遠慮してきたことか… わたしも、つい数年
前、ある協議会に所属することにより、この
事実を、知りました。

1938年、「敵国首都制圧の大英雄」として、
松井大将が帰国された直後、わが牧野小学校
にて、記念冊子をつくり、「松井大将の生ひ
立ちを伝える授業」が、行はれた。当時、わ
が父は、11～12歳。当時の地元のその雰囲気
もあつてか、父はのちに、陸士61期生となり
ました。(満洲にゐたら、シベリアに抑留さ
れた。)

のでわたしは、松井大将の復権と、南京制
圧時の事実確認に、人並み以上に、関心がござ
います。松井大先輩の、恐ろしいほどの無念を、
はらさせていただくことに、ある意味、燃え
てをります。〕